

平成28年度 第2期海域管理計画モニタリング評価シート

〈知床世界自然遺産地域科学委員会 海域ワーキンググループ〉

1. 評価項目

スケトウダラ（魚介類）

2. 評価項目の位置付け

[総合評価]

総論	◇知床周辺海域の現状
	◇今後の方向性
	◇モニタリングについて
	◇その他

[横断評価]

地球 温暖化を 含む気候 変動	○季節海水の動態とその影響 ・海水の接岸時期変動 ・水温の変動 ・季節海水と海洋生態系
生態系 と 生物 多様性	○生態系 ・海洋生態系と陸上生態系の相互作用 ○生物多様性 ・食物網,生物多様性,平均栄養レベル

[個別評価]

海洋環境 と 低次生産	海水 水温・水質・COD/ILa・プランクトンなど
	生物相
沿岸環境	有害物質
魚介類	サケ類
	スケトウダラ
海棲 哺乳類	トド アザラシ
鳥類	海鳥類
	海ワシ類
社会経済	資源環境、食料供給、産業経済、 文化振興、地域社会

3. 評価項目に関わる調査・モニタリング表

モニタリング項目	主な内容	調査名称等
スケトウダラの資源状態の把握と評価（TAC設定に係る調査）	スケトウダラの資源水準・動向	平成28年度我が国周辺水域の漁業資源評価（水産庁）
スケトウダラ産卵量調査	スケトウダラ卵の分布量調査	根室海峡卵分布調査（羅臼漁業協同組合）
「北海道水産現勢」からの漁獲量変動の把握	漁獲量を調査	北海道水産現勢（北海道）

4. 保護管理等の考え方

知床周辺海域のモニタリングや各種調査、情報収集に努め、地域の漁業者・漁業団体による自主的な取組を踏まえながら漁業法や水産資源保護法等の関係法令に基づいて、サケ類やスケトウダラの適切な資源管理と持続的な利用を推進する。

5. 評価

(1) 現状

・漁獲量は、1989年度の11.1万トンを最高にその後急激に減少して2000年度には1.0万トンを下回った。その後緩やかに増加したが2012年漁期以降再び減少し、2016年漁期は過去最低の0.44万トンであった。

・漁獲量減少の背景には、資源だけではなく、着業・操業隻数などの漁獲努力量の減少の影響もあると考えられるため、1981～2016年漁期の36年間のCPUE（単位努力量あたり漁獲量）を評価指標として用いることとし、最大値10.8（トン/隻日）と最小値0.9（トン/隻日）の間を3等分して高・中・低位とした。2016年漁期のCPUEは0.9（トン/隻日）であったことから水準は低位、動向は直近5年間（2012年～2016年漁期）のCPUEの推移から減少と判断した。

・知床半島を挟む斜里町、羅臼町では、それぞれで漁獲量及び漁獲金額の変化傾向は異なるが、いずれも圧倒的に羅臼町の方が多い。近年の漁獲量は斜里町では2012年まで増加傾向だったが、2013年では減少に転じ、その後は減少傾向にある。羅臼町は2013年以降横ばいで推移していたが、2016年には増加した。また、産卵親魚の来遊量の指標と考えられる産卵量指数については、羅臼町における産卵期の漁獲量と同様の経年変化を示している。

・斜里町における2016（平成28）年の漁獲量は16トン、漁獲金額は232千円であり、前年より大幅に減少した。

・羅臼町における2016（平成28）年の漁獲量は8,126トン、漁獲金額は1,215,835千円であり、漁獲量、漁獲金額ともに前年より増加した。

(2) 評価

評価	H28 (2016)	禁漁区の設定など、漁業者による自主規制の努力などもあり、低位ながらも資源は横ばいで維持されている。
----	---------------	---

(3) 今後の方針

今後の方針	H28 (2016)	<p>安定した漁業を持続的に維持していくために、漁業者による自主規制など資源保護への取り組みの協力も得て一方で、資源のモニタリングを継続していく必要がある。産卵期以外に、魚価の安い若齢魚や産卵成熟前の個体の漁獲量が増加していた時期もあったことから、このような変化を引き起こした要因について引き続き検討するとともに、漁期や漁場の変化について環境モニタリングの結果と合わせて今後も注視していく必要がある。</p> <p>また根室海峡全体におけるスケトウダラ資源の保全のためには、ロシアとの学術的観点からの交流を含め、国後島側などでのロシア漁船による漁獲の状況などを含め、北海道本島側と国後島側双方における漁獲量などの漁業情報や資源状況などについて、日露両国における情報の共有化を図っていくことが必要である。</p>
-------	---------------	---

(4) 中間総括

中間総括	H24～H28 (2012～2016)	<p>これまで漁業者による自主規制など資源保護への取り組みへの協力を得ながら、資源のモニタリングを継続することで、低位ではあるが資源は横ばいで維持されてきた。ここ3年は、CPUEの変動がやや大きくなってきており、このような変化を引き起こした要因について検討するとともに、漁期や漁場の変化と環境モニタリングの結果と合わせて今後も注視していく必要がある。また根室海峡全体におけるスケトウダラ資源の保全のためには、ロシアとの学術的観点からの交流を含め、国後島側などでのロシア漁船による漁獲の状況などを含め、北海道本島側と国後島側双方における漁獲量などの漁業情報や資源状況などについて、日露両国における情報の共有化を図っていくことが必要である。</p>
------	------------------------	--

6. モニタリングの概要

(1) スケトウダラの資源状態の把握と評価 (根室海峡)

○スケトウダラの漁獲の動向

漁獲量は、1989年度の11.1万トンを超えて最高にその後急激に減少して2000年度には1.0万トンを下回った。その後緩やかに増加したが2012年漁期以降再び減少し、2016年漁期は過去最低の0.44万トンであった。

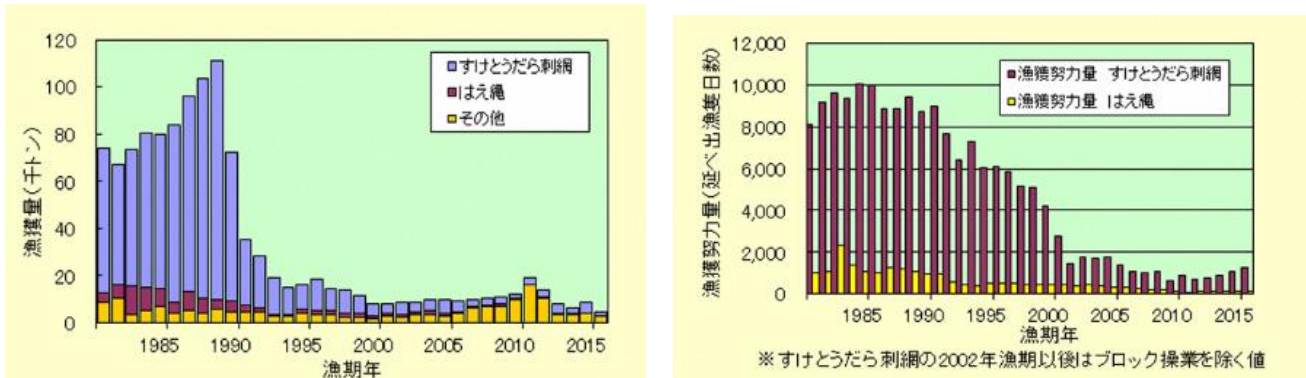


図6-1 スケトウダラの漁獲の動向
図出典：水産庁「平成29年度我が国周辺水域の資源評価 ダイジェスト版」

○資源の状態

漁獲量減少の背景には、資源だけではなく、着業・操業隻数などの漁獲努力量の減少の影響もあると考えられるため、1981～2016年漁期の36年間のCPUE (単位努力量あたり漁獲量) を評価指標として用いることとし、最大値10.8 (トン/隻日) と最小値0.9 (トン/隻日) の間を3等分して高・中・低位とした。2016年漁期のCPUEは0.9 (トン/隻日) であったことから水準は低位、動向は直近5年間 (2012年～2016年漁期) のCPUEの推移から減少と判断した。

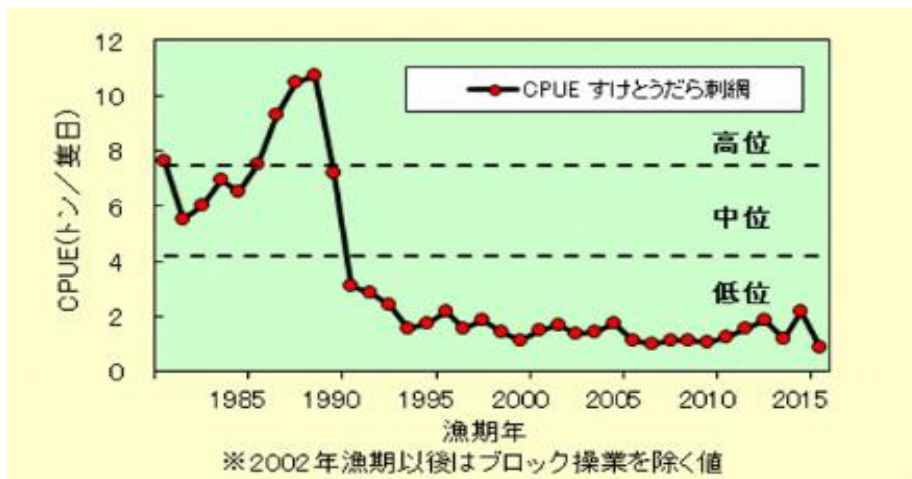


図6-2 スケトウダラ根室海峡の資源水準値
図出典：水産庁「平成29年度我が国周辺水域の資源評価 ダイジェスト版」

(2) スケトウダラ卵の分布量

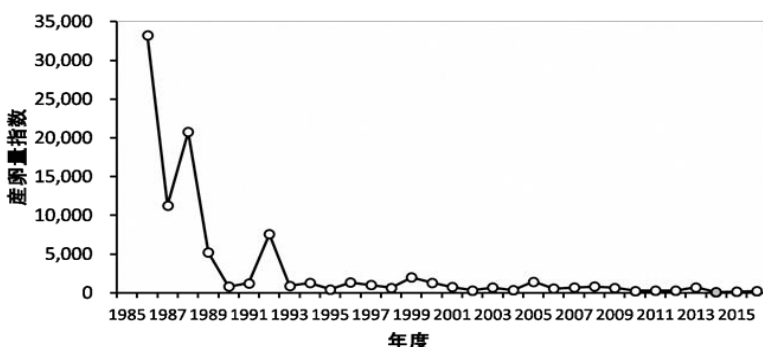
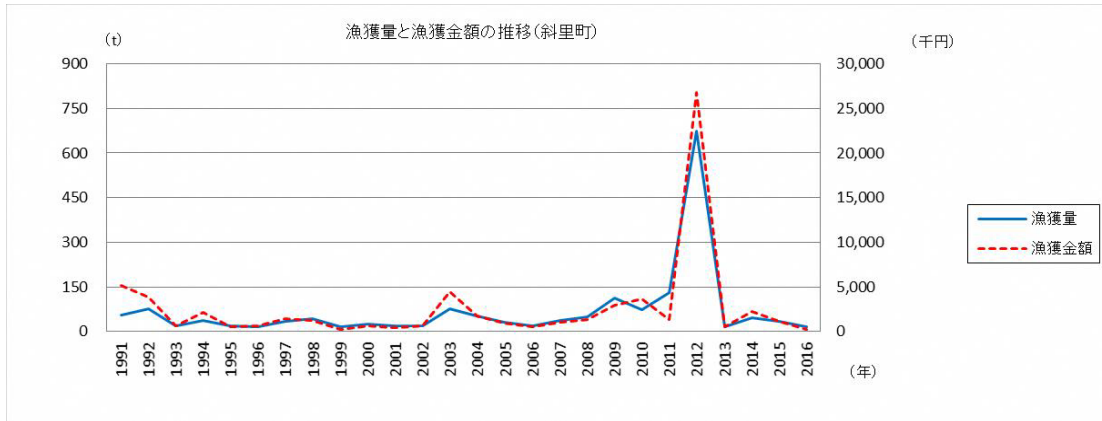


図6-3 根室海峡におけるスケトウダラ産卵量指数の経年変化
出典：羅臼漁業協同組合データ (2014年は機器故障のためデータなし)

(3) 漁獲量・漁獲金額

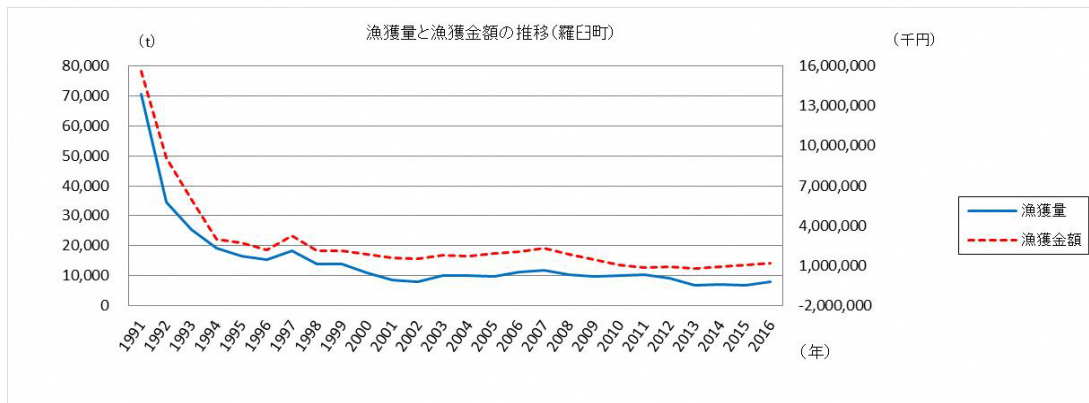
○斜里町



最近の推移

年	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
漁獲量(t)	19	37	48	113	74	130	675	16	45	34	16
漁獲金額(千円)	498	1,015	1,367	2,890	3,684	1,300	26,824	480	2,236	1,176	232

○羅臼町



最近の推移

年	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
漁獲量(t)	11,319	11,849	10,234	9,738	10,013	10,224	9,182	6,762	7,217	6,853	8,126
漁獲金額(千円)	2,034,491	2,293,993	1,843,351	1,461,925	1,072,082	856,242	930,026	771,034	911,869	1,050,192	1,215,835

図6-4 漁獲量と漁獲金額の推移(斜里町・羅臼町)
出典:北海道「北海道水産現勢」